

今回は地下鉄西18丁目駅から徒歩10分、就労継続支援A型「エルブの杜」にお邪魔してきました。エルブの杜は生花の販売をメインに、平成24年10月に設立されました。代表の伊藤さんが以前勤務していた会社で花を専門に扱っていたことから、「花を通じて社会に貢献できることを」と考え、開設に至ったそうです。

メインの利用者は精神障がいの方で、現在24名の方が登録されています。

1 作業所の特徴について

エルブの杜では、全国でも珍しい「生花のアウトレット店」として、生花やミニブーケなどを一般的な価格より安いアウトレット価格で店頭販売されています。取引先がごほみのお花をメインに取扱っているため、大量に仕入れたお花のなかにある少し開いてきたお花や、これから見ごろのお花については販売をされないことが多く、そついったお花を提供いただき、選定、手入れを行って店頭で安価に販売を行っていることから、「アウトレット」という呼び方をしているとのこと。購入された方からは「見ごろのお花なので、お墓参りなどにちやうどいい」とのお声が多数あり、

評判は大変良いそうです。また、直接中卸売業者から仕入れたお花も店頭販売を行っているほか、お花を配送する会社からの委託を受けて、仏花やアレンジメントフラワーの梱包作業などを行っている。押し花キャンドルやワックスバーを作成したり、ハーバリウム（液体のに入ったガラス瓶の中にプリザーブドフラワーやドライフラワーを入れたもの）の作成、販売を行っている。お花に関わる様々な商品を取り扱っています。

2 主な作業内容と職場の環境について

利用者の主な作業内容は、送られてきたお花の選定や手入れを行い、ミニブーケや仏花パックなどを作成して店頭と並べたり、組み立てたダンボールに延命剤を貼り付け、バック詰めしたお花を梱包する作業などを行います。選定作業や、お花の種類や状態に応じた商品化の作業は、一定の知識や経験が必要な場合も多いことから、チェッカーと呼ばれるベテランの利用者の方が中心になって行いますが、指導員や職員の方が親身にサポートを行い、利用者が相談しやすく、働きやすい環境づくりを行っています。

利用する利用者それぞれの障がい特性やその日の体調などに応じて働いてもらうことを基本とし、利用者同士でお互いを見守り、理解しあいながら、明るく、楽しく働きあえる雰囲気があり、利用者同士のコミュニケーションも活発に行われていると



季節の素材などを用いた「ワックスバー」

ことです。利用者とのコミュニケーションの中から生まれる新しいアイデアや改善案なども多くあり、それが職員の気づきや学びにつながり、よい職場環境づくりや業務の効率化に繋がっているそうです。そういった利用者の声が形になり、共有しあえる環境は何よりも利用者の喜びや働く意欲に繋がっています。なお、事業所の皆さんで行うイベントとして、年に2回のカラオケ大会なども行っています。



仏花パックの一例

最後に事業所のPRポイントをお伺いしました。「エルブの杜は、生花を扱つめずらしい事業所だと思っています。作業所に併設された店舗があり、自分たちがつくったミニブーケや生花のパックが売れていくのを日々実感ができ、購入者の顔が見えるやりがいのある作業所だと思っています。利用者の年齢層は10代から50代までと幅広く、和気あいあいとした職場です。利用者は数名募集中で、体験や見学も受付しておりますので、ぜひ当事業所へご連絡をいただければと思います。」

〈連絡先〉0600-00004

札幌市中央区北4条西19丁目1-4

就労継続支援A型 ㈱エルブの杜

電話 011-6888-5187

FAX 011-6888-5087

HP <http://herbe878.wixsite.com/herbe-nomori>